



たった一人のためにでも、世界をつなげたい。

CWS JAPAN

Church World Service

NEWSLETTER No. 44



2020年5月発行

今後のCWS Japan事務局体制について

新型コロナウイルス感染症により影響を受けられた皆さまに、謹んでお見舞い申し上げます。

CWS Japanは、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、職員と事業対象地の人々の安全を最優先し、2月末から感染リスクの低減のために様々な対応策を実施しておりましたが、このたびの政府の緊急事態宣言解除に伴い、当会における自粛体制も段階的に解除することといたしました。

今後の事務局体制につきましては、下記の方針となります。

【今後の事務局体制】

- ・原則、在宅勤務制度を活用したリモートワークを行う。
- ・各種会議への出席は、極力対面会議を避け、テレビ会議等で対応する。
- ・出勤する必要がある場合は、時差通勤により混雑ピークを回避する。
- ・そのほか予定されているイベントや研修等への参加については、感染拡大の状況を慎重に勘案した上で判断する。

出勤する場合、下記の対応策を実施しています。

- ・オフィスには同時に最大3名まで勤務できることとする。
- ・オフィスでは対面を避けるよう、机と椅子を配置する。
- ・定期的に窓を開け換気する。
- ・手洗い、うがい、マスク着用を徹底する。
- ・アルコール消毒液を設置し、事務所を出入りする際に利用する。
- ・現在進行中の国内外事業に伴う出張に関しては、不急不要の出張は控え、出張先の感染状況、医療体制、より安全な出張ルートなど多面的に情報を入手し、検討したうえで、慎重に判断することで、職員及び現地関係者の安全の確保に努める。

なお、段階的な自粛体制解除に伴い、今後の当事務局へのお問い合わせは、お電話にて承りますが、状況次第で繋がりにくい場合がございます。お急ぎの場合は、メールアドレス宛にもお問い合わせ頂きますようお願い申し上げます。ご不便をおかけして誠に恐縮ではございますが、ご理解・ご協力いただけますと幸いです。

新型コロナウイルス感染症拡大の終息が訪れたあと、誰一人取り残されることなく、すべての人が大切な人や、大事なものが大事にできる社会を実現できるよう、CWS Japanは引き続き、活動を継続してまいります。

いつもCWS Japanの活動に温かいご支援、ご理解をいただき、ありがとうございます。

Facebook
twitter
instagramでも
情報発信しています！

最後のページを
ご確認ください☐

特定非営利活動法人CWS Japan
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館25号室

✉ public@cwsjapan.jp
☎ 03-6457-6840

アフガニスタン・干ばつ被害軽減のための農業支援事業の完了に向けて

アフガニスタンでは2017-18年の冬期降雨量の減少により発生した大規模な干ばつ被害が深刻化しています。その緊急対応として、2019年から同国バーミヤン州バーミヤン中部地域に暮らす被災農家に対し灌漑設備の整備並びに代替生計手段である養鶏の技術支援を実施してきました。

同地域の農業は山岳地帯で雨水と地下水に依存していますが、灌漑施設は用水路を手作業で掘り石を積んで周囲を補強しただけの簡易なものであるため配水効率が悪く、さらに2018年までの干ばつにより用水路が干上がり農地が減少したこともあり、農家の生活は困窮しています。本事業では3つの活動（①灌漑設備の整備、②キャッシュフォーク（④の整備作業に参加した裨益者に現金支給するもの）、③代替生計（養鶏））を実施しました。これら事業を通じて、限られた水資源が有効活用されることで農地が回復し、作物の収穫量が増えることで農家の生活が改善するとともに、農地で働く労働者の所得も向上することが期待できます。また、女性への養鶏技術の移転により代替生計手段が生まれ、干ばつによる収入減の影響を軽減できます。



（アフガニスタンの対象地にて灌漑整備作業を実施している様子）

事業の中間モニタリング結果では、以下のポジティブな変化を観察することができました。

（1）既存の井戸、用水路、溜池の補修・補強により漏水を防止したことで、すでに貯水池には十分な水が溜まることが確認できました。

このように水資源を効率利用するとともに、防護壁の設置により農地の地滑り及び浸食を防止したことで、今後425世帯の農地が保護され・回復します。

（2）灌漑の整備作業に参加して受け取った現金の91%が食料品（小麦、お米、野菜等）に利用され、9%は食料以外の衣服、衛生健康品、料理や暖房用の燃料等に利用されました。作業に参加した全ての裨益者がキャッシュフォーク支援に満足しており、収入が減ったことに対する従来の対処法、例えば、農作業にも重要な家畜を売ってしまうことや、まだ幼い娘を結婚させること、学校へ行くはずの子どもたちを労働につかせるなどといった対処法を回避するように人々の思考が変化したことがわかりました。

（3）養鶏技術を学んだ全世帯のうち76%以上が、事業前後を比較して、食料消費量が増え、多様な栄養素を含む食事をとることができるようになりました。

現地では前例のない厳しい寒冷な気候により、一時的に作業を止めなければいけない時期もありましたが、その間でもコミュニティとの信頼関係は崩れず、ポジティブな変化を起こすことができました。引き続き、事業完了に向けて安全第一で進めていきたいと思っております。

（文：プロジェクト・オフィサー
西澤紫乃）

ADRRNメンバーのCOVID-19（新型コロナウイルス）対応の取り纏めを行いました！

CWS JapanはアジアのNGOネットワークであるADRRN（Asian Disaster Reduction and Response Network）の理事兼事務局統括を務めておりますが、各国のメンバーによる支援活動の取り纏めをこの度行いました。

レポートは[こちら](#)からご覧いただけますが、以下いくつかハイライトを共有致します：

- バングラデシュではDhaka Community Hospital Trustがロヒンギャ難民キャンプを初め災害への脆弱性が高い地域にて医療・衛生・啓発支援を行っています。医療者への資材（マスク等のPPE）が不足している中、医療従事者への資材提供も行っています。
- ミャンマーではCommunity Development Associationが衛生啓発活動を行ったり、手洗い場を新たにコミュニティ内に設置したりしています。
- フィリピンではCenter for Disaster Preparednessが、行政の支援スキームから取り残され人を無くす為、食料支援を貧困層へ行くと共に積極的な調査提言活動も行っています。
- パキスタンではCommunity World Service Asiaが保健衛生活動を既存の事業へ組み込み、感染拡大の防止を目指しています。
- マレーシアではMercy Malaysiaが保健省とのパートナーシップの基、医療支援を行っています。
- インドではSeeds Indiaが貧困層を対象とした100万食支援キャンペーンを行っており、つい先日100万食の配布を完了したと報告がありました。
- イランではAssociation for Protection of Refugee Women and Childrenがアフガン難民を対象とした支援を拡充するようイラン政府に向けての働きかけを継続しています。

COVID-19 RESPONSE OF ADRRN MEMBERS: A SITUATION MAPPING REPORT

VERSION 1 (APRIL - MAY 2020)

The Coronavirus disease (COVID-19) was first reported in Wuhan, China in late 2019, and within five months, it has affected 213 countries, areas or territories. As of 16 April 2020, the World Health Organization (WHO) has reported 1,918,138 confirmed cases, and 123,126 confirmed casualties worldwide.

WHO declared the outbreak of COVID-19 as a public health emergency of international concern on 30 January 2020. It is now a global health crisis and most of infected countries are following social distancing, travel restriction and strict lockdown policy as prevention measures.

ADRRN members in the region have been working hard to support people in need at this difficult time and have taken local initiatives to provide health and livelihood support to respective communities. This situation survey documents local initiatives and action taken by ADRRN member organizations in the region in supporting their local and national government to cope with this pandemic outbreak.

April 2020

(当レポートカバー表紙)

ADRRNには20か国・50団体以上が加盟していますが、やはりこのような危機的状況下ではローカルアクションが一番効果的であり重要だと感じます。継続的にメンバーの活動を集約し、ADRRNのウェブサイトでもお知らせしていきますので、是非またご覧頂けますと幸いです。

(文：事務局長 小美野剛)



CWSJapan



@Japan_CWS



cws_japan

日々の活動や事業の詳細や支援先の様子などを写真(ときどき動画)でお伝えしています！